



# 10月附幼だより

令和6年9月30日

## 旭岳を心と体で感じてほしい

附属旭川幼稚園園長 佐藤 公文

19日のおひさま組旭岳登山では美しい旭岳・大雪山連邦を見ることができました。おひさま組の皆さんはスタート直後、元気に登山道を歩くことができましたが、途中から上り下りがあったり、石がゴロゴロしていたり、危なそうな狭い道、手を使わないと登れない坂道・・・途中から「ちょっと大変」「どこまで行くの～」そんな声が出るほどでした。でも、一生懸命歩いている園児の姿を見て、観光客の皆さんが「えらいね～」「何年生？年長さん？」「幼稚園！すごいね～」「がんばってね～」そんな声をかけてもらいながら本当に頑張って歩くことができました。旭岳噴気孔に寄って、目的地の姿見の池に到着。みんないい経験ができたと思います。

附属旭川幼稚園はなぜ旭岳や嵐山の登山をしているのでしょうか。1番の目的は“地域の原風景を全身で感じ、心の中に残してほしいということです。”旭川は360度山に囲まれています。その山をもっと身近に感じてほしいと思います。さらに、いつも目にしている山の上に行くことで、自分の住んでいる街の風景を知識だけではなく、頭の中に風景を描けるようになります。考えたり、想像したりする力が広がると思います。また、“自分の力で登ることができた”という大きな達成感や自信を感じることができます。さらに、“きれいな紅葉が見られた”“ロープウェイが楽しかった”などが楽しい経験になり、しかも“友達と一緒に登れた”という体験の共有ができます。このような経験が純粋な心の幼児期に経験できて、これからのより良い成長を期待させられます。家族と一緒に行くこととは少し違う意味がありますね。

3歳から入園する幼稚園は3年間の中で保護者の皆様に守られた家庭から、自分の力で生きていく社会（友達関係・学校も含めて）に緩やかに入っていくはじめの3年間と考えています。その中で、徐々に子ども自身が“自分でできた”“友達とできた”“難しかったけどなんとかできた”そんなことを幼稚園生活の様々な場面の中で感じる事が大事なことです。

今の時代の幼児教育は「幼児教育がその後の人生の基礎になる」と言われています。しかし、一方では「保護者の保育ニーズ」に答えるということでも「ケガをさせない」「服を汚さない」そんな幼児教育施設が多くなっていると思います。しかし、附属旭川幼稚園はケガや汚れのリスクのある遊びや経験も様々な配慮・注意をしながら実施しています。これが本来の幼児教育だと思います。

9月7日（土）開催の研究大会で参加者から「園児のケガを考えるとバランスバイクで築山から下りることはさせられない」「遊びの中で梯子に登らせることもない」という声がありました。保護者の皆様には入園時にお話ししたように「遊びの中でケガはあります。でも大ケガにならないようには配慮しています」その通りに園児は逞しく育っていると思います。

これからも、幼児期の3年間で幼児期に経験し育ってほしいことを考え、実践できる園でありたいと考えています。これまでと同じようにご理解とご協力をお願いいたします。

